

令和5年度重要サンゴ群集モニタリング調査報告書

奄美群島サンゴ礁保全対策協議会

1. 目的

2017年の本調査業務により、与論島の茶花沖礁原では300mにわたり特に被度の高い海域があり、優占する卓状ミドリイシサンゴ群体も健全な状態で、すでにシュノーケリング等に活用されており、観光資源として重要であることが明らかとなった。また、東側礁池にも黒花海岸沖や赤崎沖に、高被度のサンゴ群集があり利用されていることも明らかとなった。しかしながら、2019年の調査により2018年の白化の影響で被度が減少した地点もあり、本調査では、与論島の重要サンゴ群集を再調査し、サンゴ群集の現況を把握し、保全に資する事を目的とした。

2. 調査海域

与論島の重要サンゴ群集海域4地点



3. 調査結果

与論島北西部に位置する茶花沖の礁原では、2017年調査時に、被度が95%と高く、直径1m超の大型卓状ミドリイシが優占していたが、2018年の白化によると思われる死滅があり、被度は95%から80%と減少していた。本調査では、サンゴの回復がみられ、被度は80%であり、健全な状態が保たれていた。隣接する品覇海岸沖の礁原においても、2018年の白化によると思われる死滅があり、被度は、60%から50%へと減少したが、本調査時には、回復がみられ、被度は70%と増加していた。東部礁池の黒花海岸沖では2017年調査時の被度は20%であったが、本調査では、2018年の白化による影響と思われる群体上部が部分死滅している群体が散見され、被度は15%であった。南東部礁池の赤崎沖では、2017年調査時には被度は50%であったが、本調査では、スゲミドリイシの成長がみられ、被度は80%と増加していた。

与論島の礁原、礁池では、2018年の白化以降、大きな攪乱は受けていないと思われる。

	調査地点	被度	特記事項
1	茶花航路 (礁原)	80%	茶花港沖の航路（漁港）西側の礁原。約 300m に渡り広範囲に生サンゴ被度が高く、礁原上にナンヨウミドリイシ等の卓状ミドリイシ属群体およびトゲスギミドリイシ等の樹枝状ミドリイシ群体が連なる。特に卓状ミドリイシは 1m 超の大型群体も多く優れた水中景観を有する。シュノーケリング等に利用されており、観光資源としても重要。フィンキック等による破損がないように利用マナーの周知が必要。2017 年調査時には、被度は 95% で全体の 10% の群体が白化していた。2019 年調査では、台風による破損等はみられなかったが、2018 年の白化で死亡したと思われる破損のないサンゴ群体の骨格が散見でき、被度は 80% であった。本調査では白化群体はみられず、被度は 80% であった。（調査日：2023 年 5 月 21 日）
2	品覇海岸沖 (礁原)	70%	調査地点の茶花航路から西へと連なる品覇海岸沖合の礁原。礁原上は被度が高いが、西へ行くほど被度は低下する。付着藻類がやや多い。多少濁りもあり、陸水の影響を受けている可能性もある。直径 1m 超の卓状ミドリイシも散見できる。2017 年調査時には全体の 10% の群体が白化していた。2019 年調査では、台風による破損等はみられなかったが、2018 年の白化で死亡したと思われる破損のないサンゴ群体の骨格が散見でき、被度は 50% であった。本調査では、サンゴの回復がみられ、被度は 70% であった。（調査日：2023 年 5 月 21 日）
3	黒花海岸沖 (礁池)	15%	黒花海岸沖合約 600m の礁池内。底質はサンゴ礫で、樹枝状のユビエダハマサンゴや塊状のハマサンゴ小群落点が点在する。特に優占するユビエダハマサンゴ群体は緑色で、優れた水中景観を有している。デバスズメダイの群れやアオウミガメもみられ、シュノーケリングにも利用されている。白化群体やサンゴ食生物の食痕もみられない。2017 年調査時の被度は 20% であったが、本調査では、2018 年の白化による影響と思われる群体上部が部分死滅している群体が散見され、被度は 15% であった。（調査日：2023 年 5 月 21 日）
4	赤崎沖 (礁池)	80%	赤崎灯台から南東へ約 650m の礁池内。ユビエダハマサンゴの大群落が広がり、群落上部には芝草状のスゲミドリイシ群落がみられる。奄美群島の他海域では、あまりみられない特異な水中景観となっている。水路に近く、波浪の影響を受けやすく潮流には注意が必要。白化群体やサンゴ食生物の食痕もみられない。2017 年調査時には被度は 50% であったが、本調査では、スゲミドリイシの成長がみられ、被度は 80% と増加していた。（調査日：2013 年 5 月 21 日）

1. 茶花航路（被度 80%）調査日:2023 年 5 月 21 日



2. 品覇海岸沖（被度 70%）調査日:2023 年 5 月 21 日



3. 黒花海岸沖（被度 15%）調査日:2023 年 5 月 21 日



4. 赤崎沖（被度 80%）調査日:2023 年 5 月 21 日

